



学びの丘から No.2

～主体的に考え、深く学び続ける生徒の育成～



令和2年1月6日発行

《 研究主題 》 「主体的に考え、深く学び続ける生徒の育成」（3年次） ～ 思考ツールを活用した対話的学びを通して ～

今年度、国語科の中教研県大会、数学科の市中教研二次研が本校での開催となり、本校教員が授業を実践しました。各教科では、それぞれ研究主題・副主題が設定されていますが、本校の現職教育のテーマとも連動させて授業を構想し実践しました。今回はその国語科と数学科の授業を紹介します。

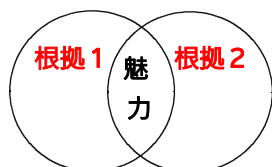
授業実践 No. 1

1年国語科「根拠を明確にして伝えよう～鑑賞文を書く～」 授業者：白石田洋子

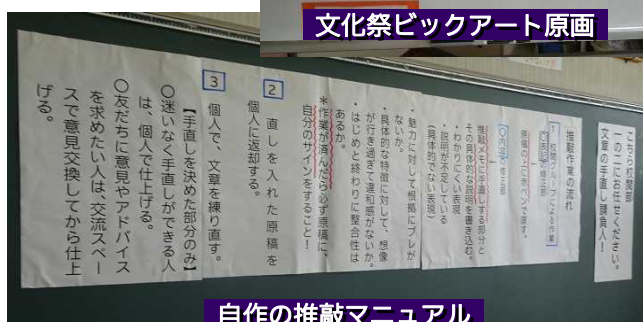
授業の概要・手立て

本時は、本校文化祭で披露されるビックアート（原画）の魅力を伝える文章の下書きを、「読み手の立場に立って表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめることを通して、よりふさわしい表現に修正して文章を整えること」をねらいとした。また、最後まで意欲を失わずに活動させるため、「ミッション」を達成するという設定で授業を実践した。

- 根拠を明確にして魅力を伝えるための構想を練る際には、伝える魅力に一貫性を持たせるために「ベン図」を利用し、根拠を2つあげさせた。
- 推敲のために、オリジナルの推敲マニュアルを作成し活用させた。
- 単元構想の中で、3つの場面（①作品の特徴を収集する場面、②推敲の場面【本時】、③鑑賞文の交流場面）でグループワークを意図的に設定した。
- 推敲された文章に対する意見については、その時の「書きたい」という意欲を断ちたくなかったので、グループ交流ではなく、助言を求める生徒を対象に「交流スペース」を設け、必要に応じて生徒同士の交流や教師からの助言ができるようにした。



文化祭ビックアート原画



自作の推敲マニュアル



推敲場面のグループワーク



交流スペースでの助言

自評、参観者の感想・意見

- 文化祭のビックアート（題材）が魅力的で、生徒達が身近な問題として捉えることができた。
- 生徒達は、段階を経て鑑賞文が出来上がる形式ワークシートを使いこなして、黙々と書く活動に専念していた姿が素晴らしかった。また、推敲の場面でのグループワークが、次のステップへ進む個の活動のための他者からの大切な学びの場となった。オリジナルの推敲マニュアルが、生徒の活動の大いなる助けとなっていた。
- 「ベン図」は、ビックアートの数ある特徴から魅力を絞り込ませ、魅力にブレを生じさせないための工夫として有効であった。
- 生徒同士で文章を直すことで得た気付きが学びに繋がる。学びのある“振り返り”に時間（終わり5分）の設定を心がけてほしい。

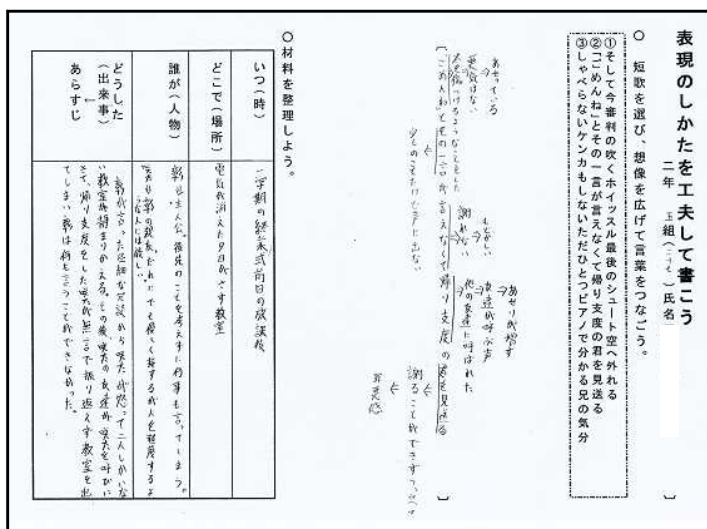
授業の概要・手立て

短歌から構想のヒントを得た800字程度の物語を書くために、本時は、短歌の言葉からイメージを広げ、読む人に伝わりやすい表現にするためにはどうすればよいかを考えさせる授業であった。創作のもととなる短歌は教師が意図的に選び、3首提示した。

- 思考ツールとして、短歌の言葉からイメージを広げるために、矢印で言葉を繋いでいく「イメージマップ」(ワークシート内)を活用した。
- 同じ素材を扱う者同士で3・4人のグループを編成し、書き出した言葉を見せ合いながら、互いにアドバイスさせた。
- グループワークから、物語に使いたいと思った言葉を表(ワークシート内)にまとめさせた。

自評、参観者の感想・意見

- 生徒達がゴール(800文字程度の物語を書くこと)のイメージをつかんでいたのも、意欲的に学習に取り組むことができた。単元構想の大切さを再確認することができた。
- イメージマップの活用やグループワークは日頃から行っているもので、戸惑いなく取り組むことができた。生徒達は、一語から想像を膨らませ、叙述に則した読みをしていた。
- 交流の際に、「言葉についての吟味」までできているグループが少なかった。また、全体での共有・吟味の時間があってもよかった。
- 多様な考えに触れる機会があればよかった。吟味の場面があれば、新たな発見や間違いに気付くことができる。



イメージマップ的手法を取り入れたワークシート



グループワーク

授業の概要・手立て

「JAまつり」の3つのポスターから、集客に最も優れていると思うものを選び、批評文を書かせた。本時は、その批評文を互いに読み合い、読み手の助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見出すという授業であった。

- 「書く」ことの学習過程を踏まえたステップアップ式のワークシートを活用した。
- 「根拠」、「説得力」、「論理展開の工夫」の3つの観点別に色分けした付箋に気付いたことを記入させ、小グループでの相互評価活動を行った。
- 単元全体を振り返り、「次に文章を書くときに気をつけようと思ったこと」や「これからどう生かしたいか」などをまとめさせ、意図的指名により全体での共有化を図った。その際にはタブレットのカメラを使い、まとめをスクリーンに映し出し、発表させた。



3つのポスターと相互評価の観点の提示



付箋を使った相互評価活動

自評、参観者の感想・意見

- 「書くこと」領域に「共有」が加わった新学習指導要領の趣旨に合致した提案性のある授業であった。観点を明確にした相互評価活動の有効性を感じた。「共有」は生徒に評価できる力がないと難しい。1年時から「共有」を行い、評価し合う場を多く設定していく必要がある。
- ステップアップ式のワークシートにより、書く段階、順序性などを意識し、書くためのスキルを身に付けるきっかけとなった。
- 振り返りの時間があり、本時の最後には自己との対話が見られた。



全体での共有化

授業実践 No.4

2年数学科「一次関数の利用」

授業者：國分 聡

授業の概要・手立て

携帯電話3社のパンフレットから、一番安い料金プランを見つけ、それを説明することをねらいとした授業である。変数である時間（月）と金額に着目させ、それが関数の関係であることの認識から、段階的に課題解決に取り組ませた。

- 生徒の興味・関心を喚起するとともに、学習への動機付けを図るため、携帯電話会社の料金プランについての課題を提示した。
- 「個人→ペア→小グループ」と学習形態を工夫しながら、課題解決に取り組ませた。特にグループワークでは、根拠をもとに自分の考えを発表させることに重点を置いた。表や式、グラフなどを活用して説明する力の育成を図った。
- 全体での発表では、タブレット（カメラ）で写した画像をスクリーンに投影し、それをもとに数名の生徒に発表させた。



ペア、グループでの学び合い

自評、参観者の感想・意見

- 提示資料や学習課題が身近で興味深いものであったことで、生徒が意欲的に課題解決に取り組むことができた。今回は消費者の立場からの見方だったが、会社の立場から消費者に説明する見方でもよかったのではないかな。
- タブレットのカメラ機能を活用した発表は、時間的ロスがなく全体に提示できるので大変有効であった。
- 説明することに主眼が置かれ、考える時間が十分に確保できていなかった。もう少し個人の考える時間が多ければ、グループワークでの吟味や発表の充実に繋がった。
- 机間指導の中での助言や支援を充実させる必要がある。特にグループ間の差を埋めることや下位生徒への対応が課題である。また、どの会社のプランがよいのか、どの生徒の説明がわかりやすかったかなど、全体での振り返りの中で考えさせることも必要であった。



タブレットのカメラ機能を活用した発表

雑感

今回紹介した授業は、いずれも多くの教員が参観する、所謂“見せる授業”でした。見せるためには、深い教材研究のもと、様々な工夫や手立てを講じていかなければなりません。しかしながら、本校では日頃より様々な授業でグループワークが実践され、その積み重ねがあります。したがって、多くの授業で自然な形で話し合う生徒の姿が見られます。決して研究授業のための特別なものではないということです。

